公表

事業所における自己評価結果

事業所名 放課後等デイサービス POCCO音の泉こうふ

公表日 2024年12月20日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		怪我のないよう療育に必要な器具等の量のみ 用意し、広く動けるよう配慮している	
環境	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	7		適切な配置数になるようにシフトを組んでいる。	利用児の状況によっては不足を感じるときも ある。
・ 体 制	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		絵カードなどを用いて視覚的にわかりやすい 環境作りを心掛けている。	
整備	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、 こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		おもちゃの消毒、部屋の掃除などを行い、子 どもたちが快適に過ごせるようにしている Airdogを2台使用している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められ る環境になっているか。	7		クールダウンする際などに子どもが入れる部 屋がある。	
	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7		PDCAサイクルを意識して、日々の業務を行っている。	
****	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けて おり、その内容を業務改善につなげているか。	7		保護者向けのアンケートを行い、要望、意向 等、できる限り反映させている。	
業務改善	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につ なげているか。	7			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている か。		7		実施できていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		毎月、大学教授からの研修に参加し、事例 などをあげて支援する上での困りごとなど に対応している	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者の ニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を 作成しているか。	7		KIDS,S-M社会能力検査等を年に1回実施し、 計画に反映できるようにしている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任 者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こども の最善の利益を考慮した検討が行われているか。			支援計画作成前に関係者会議を開くことで、 スタッフ間でその子の今の状況を把握し、改 善点や課題点を出し合うようにしている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		アセスメントのすり合わせを行い、職員間で 共通認識を持った上で作成するようにしてい る。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		KIDS、SMなどの検査用紙を用いながら、子 どもの適応行動の状況を把握することに努め ている。	
2005	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。				R6の改定時期から設定しているが、「移行支援」「地域支援」等は画一的なものになって しまっているためより具体的にしていく必要 がある。
適切な支	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		その都度、声をかけ合い、職員間で話し合い、取り組んでいる。 週ごとに内容を検討、決定している。	

					T	
援の提	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		子どもの状況に合わせて対応している。 季節感などを取り入れ、子どもの課題にあったものを考えている。	
供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課 後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		基本的には集団活動だが、その中で個人の課題を明確にしひとりひとりに合わせた対応を 心掛けている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		朝礼時に役割分担を決めて、連携して支援を 行う体制を整えている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の 振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		その都度声をかけ合い、職員間で話し合い、取り組んでいる。 気付いた点はその場で共有できるようにして	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		記録は必ずとり、保護者と共有できるようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの 必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		半年ごとに取り組んでいる。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み 合わせて支援を行っているか。	7			地域交流の活動を行う機会が作れていないの で、今後計画して積極的に機会を作っていく 必要がある。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定 をする力を育てるための支援を行っているか。	7		発語がない、少ない児童には選択肢をいくつ か用意している。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、 そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		基本的に児発管が出席している。	
	27	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7			
	28	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	7		基本保護者から情報をいただいているが、直 接学校とやりとりすることもある。	
関係機	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援 事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7		引継ぎ会議等あれば参加し、情報共有に努め ている。	
関や保	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等 へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している か。	7		移行会議があれば参加し、情報提供を行なっ ている。	
護者と	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスー パーパイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	5	センターの参観や研修等、都合がつけば参加できるようにしている。	
の連携	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する 機会があるか。		7	地域の公園へ遊びにいった際に、地域のこど もと交流する機会を持てることがある。	放課後児童クラブ等との交流の機会はほとん どない。
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	7		地域通所事業所連絡会へ理事として参加している。	自立支援協議会への参加はできていない。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		送迎時や記録共有等で共有できるようにして いる。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム (ペアレント・トレーニング等) や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	3	外部講師による、保護者も含め地域一般にむけた研修会は開催できている。心理士による相談会の案内は定期的に行っている。	職員によるペアレントトレーニングは実施で きていない。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っ ているか。	7		入会時に行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思 の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや 家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、 保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		都度説明し、サインをいただいている。	

					T	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要 な助言と支援を行っているか。	7		日々の送迎時を通して家族支援の機会をもつようにしている。	
保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、 保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、 きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	4	3	保護者参観の日を設定し、児童の様子をみていただいたり、保護者同士の交流の場として考えている。引き続き実施していく。	参加保護者が少なく、十分ではないため引き 続き企画し、大勢の参加を図っていく。 きょうだい同士の交流の機会はほとんどない ため、企画していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するととも に、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対 応しているか。	7		苦情BOX,第3者委員を設置	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		会報はないが、LINEやInstagram等、SNSを 利用し発信することが出来ている。	SNSの利用が難しい保護者に対するフォローの手薄さはある。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		知り得た個人情報については、他言しないことや、個人情報のある書類等、厳重に取り 扱っている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮を しているか。	7		発語の少ないお子さんに対しては視覚的に伝えたり、選択させる形で本人の意志を聞くように配慮している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を 図っているか。		7		地域住民との交流の場の機会はなかなか持てていない。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	3	マニュアル策定済み、訓練を行った際には SNS等を通じ様子を周知できるようにしてい る。	マニュアルは策定されているが十分な周知はできていないと感じる。
	47	業務継続計画 (BCP) を策定するとともに、非常災害の発生に備え、 定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		策定済、年間計画で訓練も実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		入会時等に保護者に聞き取りを行ない、確認 している。	
非常	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応が されているか。	7		契約時にアレルギーの有無を保護者から伺い、それに 伴っておやつの内容を検討したり、アレルギー成分の含 まれるおやつを購入しないよう、配慮している。	
時等の対応	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置 を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	1	6		安全計画についてよく知らない。 周知の必要 がある。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検 討をしているか。	7		本事業所だけでなく、全体会議で他事業所の 事例も共有している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		社内研修として年2回虐待防止研修を実施、 参加している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7		やむを得ず身体拘束が必要とされると想定される場合には説明の上、計画に記載するようにしている。	